

アンケートへの御協力、ありがとうございました。

頂戴しました情報や御意見は、本校における防災体制に活かしていきたいと思えます。

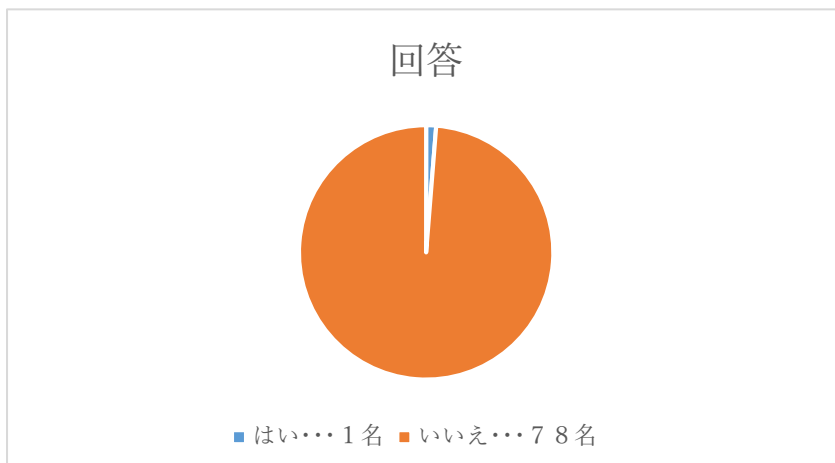
今後とも御協力の程、よろしくお願いいたします。

アンケートの内容

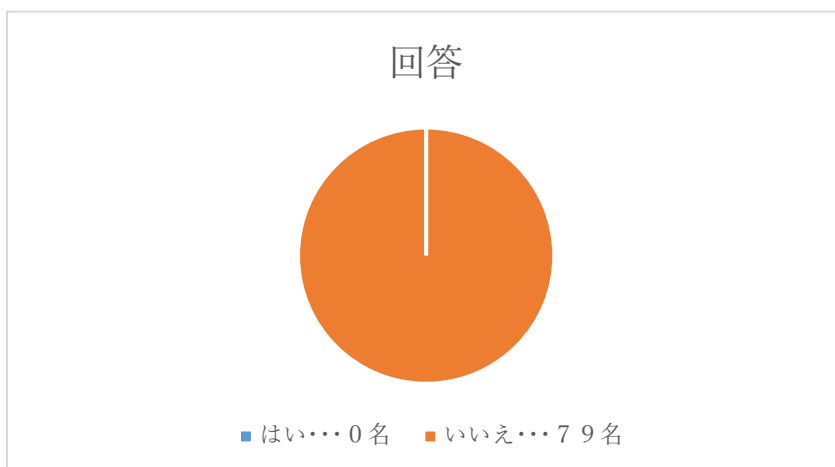
- 1 地域の避難所に避難しましたか。 はい いいえ
- 2 お子さんは地域の福祉避難所に避難しましたか。 はい いいえ
- 3 避難所で特に困ったことは何ですか。(避難所に避難された方のみお答えください)
- 4 今回の台風で、お子さんに関して不安に感じたこと、特に困ったことは何ですか。
- 5 逆に、役に立ったことや、有効だった福祉サービスなどは何ですか。
- 6 今回の台風で、感じたことや考えたことがあれば書いてください。

アンケート結果のまとめ

- 1 地域の避難所に避難しましたか



- 2 お子さんは地域の福祉避難所に避難しましたか



3 避難所で困ったことは何ですか

- ・19号の時は避難所で過ごしました。いつもと違うということもあり、子供が落ち着かずずっと動いていました。声の大きさと調節が難しく、たくさんの人がいる中で過ごすので気疲れはしました。周りの方に注意されたり等、お話しても同じことを繰り返してしまう等。
- ・県と市の対応の悪さと避難所も使えなかったこと。自分たちでホテルをとって避難した。
- ・子どもを連れて行くと余計に大変になるので連れて行けない。(騒ぐ、泣く、多動)

4 今回の台風でお子さんに関して不安に感じた事、特に困った事は何ですか

- ・電気や医用機器が使えない。(38)
- ・家の中が暑く、熱中症にならないか。(9)
- ・夜に寝れないので、車で寝たが、眠かった。(5)
- ・電気がないことの不安やイライラ(いつもしている遊びができないなど)。停電解消後のケアなどどうなるか不安だった。(5)
- ・通信障害があった場合の対応。(5)
- ・停電になってしまったので、今どうなっているのか情報が全く入ってこなくてとても困りました。(4)
- ・食が細く偏食もあるので、食べる物が限られるなか、食べさせるのが苦労しました。常温の水やジュースを飲まなくて(氷が好き)困りました。(3)
- ・雨音が大きく、懐中電灯と蝋燭が頼りの飲食物に気遣う生活で3日間過ごした。
- ・今後避難所に行くことができるのか?
- ・4日間風呂に入れず、生徒と一緒に入れる浴場がどこにあるのか情報が全く分からなかった。
- ・15号の時は停電で暑い中でもエアコンが使えず、熱中症がとても心配でした。不眠と不安で体調は悪くなってしまいました。19号の時は停電しませんでした。15号の時のことを思い出し、子ども達はとても不安がっていました。
- ・15号の被害で自宅が停電になったため、家が暑かったので夜は車中泊したとき、寝られないし体勢も悪かったのであまり寝られていなかった。
- ・今回避難所を利用することにしました。利用しなければならない状況になったとしても、避難所の大勢の人の中で騒いで落ち着いていけないと思うと、他の人に迷惑をかけそうでぎりぎりまで避難をするのをためらってしまいそうと思いました。
- ・電気が点かないことで不安定になるかと心配でしたが、「今、工事中だよ。」と説明すると、他の兄弟と仲良く遊んだりして、普段通りに過ごすことができました。
- ・子供と一緒に避難所へ行こうとしたが、本人が行くのを嫌がっていたので、気持ちも不安定な時に無理に連れていくことはできないと思った。
- ・いつもと同じことができないとイライラしている様子が見られた。夜もなかなか寝付けなかったようです。
- ・落ち着きがなく、台所へ来たり、玄関の所へ何度も行ったり来たりしていました。
- ・15号では4日間停電でした。汗かきなので、クーラーが使えず、こまめに着替え&水風呂(プール)で遊びましたが、真夏だと心配です。
- ・15号の時は家で過ごしました。停電だったのもあり、元々薄暗い所は苦手な恐怖感から「抱っこ!」とずっと言い、抱っこで過ごしたことが大変でした。トイレに行きたがらない等、避難所で入口に靴を持って行き、履き、外に出て、紙皿を投げる等を繰り返す等
- ・大きなパニック等はなかったが、水遊びが大好きなので、お風呂にためておいた水などでついつい遊んでし

まい、水が汚れる、洗濯物が増えるなど困りました。

- ・19号の時、朝2時間程度停電しましたが、電気のスイッチを何度か開け閉めしていました。テレビもリモコンを渡して開けてほしいとアピールしていました。停電していることがなかなか伝わらなかったです。
- ・食事：食べられる物が限られているので、家にあったレトルトストックでは足りなくて困った。
- ・携帯がつながらず、学校からのメール受信もできなかったのが困った。
- ・薬を飲ませるのにヨーグルトを使っていたので停電でヨーグルトが手に入らなかった時に困った。
- ・停電によってお店がやっていなかったので落ち着きがなかった。
- ・ネットもつながらない、電話もつながらない状態になり、もしもてんかんの発作を起こし、救急車を呼ばなければならなかったらどうしたらいいのか、ぞっとするとともに対応方法を知らなければと考えた。
- ・精神的に疲れてしまい不安定になった。ライフラインも止まってしまい、情報や子どもに対しての支援等が全くなかったのとにかく子どもを守り、不安を取り除いてあげることで精一杯だった。(2)
- ・今回は自宅で過ごすことができたが、初めての場所だと入れないことがあるので避難所が慣れた場所以外だと大丈夫だろうかと思った。
- ・完全に暗くなるととても怖がったので、夜中中、懐中電灯かランタンをつけていた。電池の消耗が思ったより早かった。
- ・オムツなので公共のお風呂には入れない。暑い時期だったので水シャワーで大丈夫だったが冬で期間が長いと困ると感じた。
- ・電気がない生活が続き、いつもと違う事へ少しずつ、独り言や「いつなおる？」など同じ言葉が増えた。予定の変更(行事など)一度は理解していたが2度目の19号では「また？中止？」など続けての予定変更不安を感じていた。
- ・15号の後は停電が3日ほど続いたので、お風呂に貯めた水で子供の身体を洗っていましたが、頭を洗うことに抵抗があったのか(水が冷たいため)洗うことができず困りました(かゆかったようでかわいそうでした。)
- ・おむつなので、15号の時は、停電で買い物に行けず不安になりました。幸いお店はすぐ復旧した所もあったので良かったけど、他の品が少なくなったりしたのを見て、買いだめするべきかと思いました。
- ・15号、19号とも停電、断水がなかったので、通常の生活を送ることが出来、特に困ったことはありませんでした。
- ・食事面、移動方法等にも不便を感じるので、他の避難は考えられません。
- ・洪水になったら歩けない(ほぼ寝たきり)ので困った。
- ・子供本人がどういう状況なのかが全く理解できていないこと、今回はずっと親と一緒にいられたからよかったです、一緒にいられない時のことを考えると何をどう教えたらいいのか全くわからないですし、連絡をどうとればいいのかなど不安に思うことだらけでした。
- ・電気、水がとまった。こわかった。
- ・いざというときの暑さ対策を考えておく必要があると感じました。
- ・携帯電話(タブレット)が停電で充電ができなくなって、とても不安になってしまいました。友達と連絡がとれなくなると困ると言っていました。
- ・大人は台風でも仕事に行かねばならず、離れている間、携帯の連絡がつかないことが不安でした。
- ・学校は休みだろうと勝手に考えていた。連絡もつかず過ごしていたら、学校があったこと。
- ・災害弱者登録をしていたが安否の確認といって電話が八街福祉課からあったのは6日たってからだった。その時の対応方法、マニュアルなどがないと言われ、嚴重に抗議させてもらった。いざとなっても役にたたない感じだった。次の台風では即電話での安否確認があったが。

5 逆に役に立ったことや、有効だった福祉サービスは何ですか

- ・役に立ったこと福祉サービスは全くない。かなり困った。(2)
- ・防災メール・・初めて登録しましたが、水の配布などの場所がわかって良かった。(2)
- ・東京電力に登録すると、発電機のレンタル、停電、復旧の連絡が来る。
- ・役所の保健室が利用できる。
- ・病院へ充電や宿泊ができる。
- ・保冷剤があったので、魚等溶けなくて良かった。
- ・お風呂の残り湯をトイレで使用できた。
- ・学校との連絡がスムーズに行えた事と、防災放送がよく聞き取れて良かった。
- ・通信網がほぼ使用できず、情報を得ることが大変でしたが、近所の方、その他デイサービスの方等々いろいろな方から情報を教えてもらいました(学校のことや給水所のことなど)。
- ・学校からくるメールはととてもありがたかったです。
- ・八街市の避難行動要支援者に登録していただいていたので、15号の時は障がい福祉課の方が家に来てくれたり、お電話で状況の確認をしてくださったのは良かったと思います。
- ・子供は初めてラジオを聞きました。機械から音がでるのが不思議だった様子で、お気に入りになりラジオの前から離れませんでした。
- ・学校(支援学校)やデイサービスが早くから通所できたこと、近所に携帯の電波が入りやすい場所があったこと(八街イオン)
- ・防災無線が普段緊張感のない生徒にとって、大事だということが伝わり、良かった。注意深く聞いていた。
- ・透析のため、他の学童がやってくれなくても「あいのて」さんは時間の融通をきかせてくれて助かった。
- ・ハンディタイプの扇風機のおかげで我が子は夜眠れました。(昼は親がうちわで仰いでいた)
- ・給水所に行くときに車に乗せてエアコンの中で涼ませることができた。行政のおむつの給付をうけていて、ちょうど停電前日をお願いしていた。おむつがヤックスに来て、停電2日目にヤックスの方が家まで届けてくださったのでありがたかった。(店に普通に売っているサイズではない)
- ・ろうそく等の光源、ラジオ、電池、カセットコンロ、炭、食料、水などの備蓄品
- ・小さな発電機で夜は電気スタンドと扇風機をつけられたので少しはストレス軽減に繋がったと思う。
- ・市の福祉課から安否確認の連絡があった。(療育手帳 B1、B2 はなし)
- ・成田赤十字病院の受け入れの確認の電話。
- ・自衛隊風呂・・私は利用せずに済みましたが、友達はずごく助かっていた。
- ・太陽光発電
- ・19号の時に養生テープを窓に貼るのを積極的に手伝ってくれました。
- ・水を配る。
- ・介護サービスに2階への上げ下ろしを依頼。たまたま予約している時間だった。他の利用者からの依頼は断っていた。
- ・短期入所サービス 福祉避難所(15号の時に初めて開所し2名の障害者の方に宿泊場所や食事等を提供しました。)

6 今回の台風で感じた事や考えた事があれば書いてください

- ・停電や断水等、予想しなかったことがあったので、日頃から防災意識が必要だと感じた。(4)
- ・自然災害は予想もつかないことが起きる。8年前の時、色々あったが、発電機の設置などまだ不十分だと感じた。電話もつながらないという、周りの状況もわからないという不便さがあった。安否確認も町内も、区ももう少しまとまりが必要かも。(2)
- ・学年の仲間とラインで情報を貰ったり、先に復旧した家のママ友が物資を届けてくれたりした。大変な状況をやりとりするだけでも不安が和らいだ。(2)
- ・騒ぐので、避難所には入れない。
- ・東日本大震災後、私たちに何かあった時に、子どもを助けたくて安否確認に登録したが、市役所からの安否確認や心配の連絡は6日後、電話にてきた。もしこれが地震などの災害だったら、安否確認の電話ではなく死亡確認になってしまう。6日後に発見された場合、発見されても間に合わない。震災後に色々改善されたが、多分どれも内容は薄いように感じる。
- ・自分の子どもは一般の入浴施設に入れない。主人もいたので、自衛隊の仮説風呂を利用したが、異性(子どもが)だと、一人で利用させられないので、不便だと思った。
- ・家族で協力できて良かった。
- ・テレビの放送で台風の大きさや進路予想が早く放送された事と、ラジオが聴けた事で対応ができた。
- ・地域の人々(近所)とのつながりがやはり大事だと思いました。障害者の避難できる避難所が必要だと思います。
- ・我が家では水、食料等を備えていました。停電の備えとして蓄電池もあります(今回エラーが起きて正しく動作しませんでした)。足りない物等も多かったので、今後に備えていこうと思います(水用タンクをもっと購入、家族間での避難所の利用についての再確認等)。子ども達と普段の生活のありがたさ、自然のこわさについて話しました。
- ・もう災害など起こらないのが一番だと思いました。
- ・停電が一番大変だと思いました。どれくらい続くのかわからなかったので子供を不安にしないように、なるべく声かけやいつも以上に一緒にいました。備えておいたライトを点けて、網戸にして、蚊取り線香をつけてプーリングの上で寝ました。子供は大人の様子をよく見えていますので、大人が大丈夫、大丈夫と言っていれば案外落ち着いて過ごしてくれました。
- ・大きな被害はなく、ライフラインも早めに復旧しましたが、テレビなどで見る状況、断水で給水所へ水ももらいに行ったり、食事の配給ももらいに行列をつくっているのを見ると、実際、自分の身になった時、子供を家に置いていけないし、一緒に行列に並ぶのも大変だろうと思いました。家の中が泥だらけになり、後片付け等したくても、学校、学童も休み、子供を預ける時間がないと、そういった作業をなかなかできないのだろうなと思いました。普段の日常でも不便なことだらけなのに、災害時はどうなるのだろうと不安はたくさんあります。
- ・自宅は停電4日間でしたが、井戸とオール電化のため生活することができず、祖父母宅で過ごしました。停電中、家族や近所の方とたくさん話す機会があり、これからもっと停電になった時のことを考えて、備えや家族での連絡の取り方などを考えていこうと思いました。
- ・通常の避難所なら家から近いが、福祉の方は道路も冠水しやすく行きづらい。現実問題として避難所の利用は難しい(今のところ)ため、これからいざという時のことを考えなくてはいけないと思いました。
- ・台風が来る前に色々準備をきちんとやらなくてはいけないと思った。(水の準備など)
- ・停電に関しては特にはないのですが、いつどう台風が来てどうなるかわかりませんが、まだ手はかかってしまっただけで避難所へ行くのは周りに迷惑をかけてしまうので、それが気になってます。
- ・場所見知りや酷くパニックになります。なかなか避難所に行くことは無理そうです。家に住めなくなれば行

くしかないので、とても不安です。個室や障害がある人用のスペースがあると安心です。

- ・電波が悪いと連絡がとれないので、どうしようもないですが不安です。
- ・八街市ですが防災無線が全く聞こえませんでした。市内の小中は聞こえました。
- ・近くの小学校から大音量で休校のお知らせ等流れていました。難しいと思いますが、そちらから流してもらえると聞き取れると思います。
- ・自分の中で避難所のイメージがあり、避難所にはじめて行き過ぎ、こういう時は避難所へ行っていいんだとなんだかホットしました。子供二人で家で過ごすよりは、避難所で過ごした方が、誰かしらいるので安心はしました。紙皿にラップをひけば、洗わず何回も紙皿を使えることや、トイレトペーパーの芯に懐中電灯を入れ、その上に水の入ったペットボトルをおくと明るさが増す等、いろいろ調べるきっかけになり、ためになりました。台風数日前から電池やパン、水等売れ切れ状態で日頃からの備えは大事だなと思いました。
- ・日頃からいろいろな人と交流を持つことは大事だなと思いました。電話などもなかなかつながりにくい状態でしたが、たくさんの人から情報をいただきどうにか4日間生活することができました。
- ・地域が限定されているとラジオ等はあまり役に立たない。
- ・透析は何が起きようとしてもしくはない治療なので、大変な時に手を差し伸べてくれる福祉サービスなどがもっとできたら良いと切に思う。
- ・事前に家族等で話し合っておくことが大切だと感じた。
- ・学校の先生の対応の悪さ。
- ・お風呂を貸してくださる施設がたくさんあったが障害のある我が子を連れて行かれそうな所がないように思えた。(シャワーをすごく嫌がり騒いでしまうので)
- ・太陽光発電のついている家がうらやましかった。
- ・家が壊れて避難せざるをえなくなった時、我が子を連れて行かれる避難所があるだろうか心配になった。食料やおむつ、騒ぎ声など気になるところがたくさんある。
- ・同じ地区でも被害の違いがあり、台風が来る前の準備が大事(スーパー、コンビニでの食品、買い占め、ガソリンスタンドの混雑)混雑する前に準備できていれば慌てずに済むのではないかと思った。
- ・事前の準備で食料品、飲料水、乾電池などを備蓄して良かった。学校でもそのような準備、備蓄品をしているのだろうか。地震などでもしかしたら半日、1日子どもを迎えにいけなくなるかもしれないので。
- ・1回目の台風は、雨漏りで大変だったので2回目の台風は対策や準備をしっかりと行った。2回目は被害も少なくて済んだ。メール情報はきちんと届いていた。
- ・停電になり車中泊もし、普段からの防災用品の準備をしておかないといけなくて身にしみた。井戸水のため断水もし、お風呂のため水もしていなかったのでわき水をくみに行った。台風は何日も前から来るとわかるので対策は本当にしっかりしようと思った。しかし、大災害、予期できぬ地震などで家から離れないといけなくなる事態になると、重度知的障害、てんかんありの息子の在り方がどうなるのか大変不安である。自助努力はするが限界もあり、行政の方にも助けてもらいたいと思った。今後はもっと関心をもとうと思う。
- ・避難するにしても一般の避難所では絶対に無理で家庭で対策をしなければと思った。今回のような場合、子どもに対して福祉サービスが必要。メンタルな部分でのフォローがかなり必要となってくるので、家庭での対策をとらないといけなくて具体的に細かく考えなければと思った。電気、水などのライフラインが止まってしまったので子どもには厳しいと思った。
- ・学校(日吉台小)、コミュニティセンターは避難場所に決定していても、地域で最後まで停電が続いた。このような場所こそ、立地条件や復電の順位を早めるなど、対策の最前線基地として機能できるような体制を考えてほしい。
- ・医療機器、使用のため蓄電池の設置を決断した。

- ・八街の防災無線は聞き取りづらいので、災害時伝言ダイヤルに期待している。
- ・通信状況が悪い時は車で移動して通信状況の良いところに行き、そこでキャッチすることができた。こういう方法も実際に体験することで、どのようにしたら良いのか分かった。
- ・不二学園においてはここ数年毎年9月に災害訓練を行ってきましたが正直実感が湧かず少しマンネリ化していました。今回の台風を経験して水や食料の備蓄（3日分は常備しています）を増やしたり、発電機等を増やす必要を感じました。また、日頃から災害時の情報発信や関係機関の災害時における対応について行政が中心になって進めて取り組んでほしいと思います。富里特支は丁寧にやってくださっていると思います。これからもよろしく願いいたします。
- ・避難所で横になる場所がないならば自宅にいるしかない。重いので一人で運べない。
- ・備えておけるのだから食料やライト、準備できるものは日頃から準備しようと思った。ハザードマップの確認。
- ・普段当たり前と思っていた電気が消えて子供も親達も電気のありがたさを改めて感じる事ができた。
- ・ライトや水を多めに備える大切さを教えることができました。暑かったので学校は休みでよかったです。行くなら1日が助かります。
- ・今はパットを使い時間をつぶしていることが多いためネットが使えなくなった時の時間の使い方を考え普段より話をするを増やして対応しました。少し頼り過ぎていたと反省しました。
- ・停電が続くと部屋の暗さにも気分が落ち込んでしまう様子だったので、早速明るい大きなランタンを購入し、子にも見せて「これで大丈夫だよ！」と言い聞かせました。市役所でヘッドライトなど配られたようですが、情報がありませんでした。
- ・普通食が食べられないので、ストックの用意があるが長期的には対応できない。同じような食べ物なので、段々食べてくれなくなりました。
- ・暑かったので、熱中症等も心配でした。（おむつもおむつ使用でかぶれてしまいました。）
- ・夜は真っ暗なので子供の様子等もしっかりと見れず不安でした。なかなか寝てくれなかったので大変でした。
- ・自然災害なので、仕方がないことなのですが、停電、通信障害などで学校から又家庭から連絡が取れないときは市役所教育課などに伝言板などを作っていただけると助かると思いました。
- ・9月は日常生活で当たり前のことが災害によって停電して水も自由に使えませんでした。家も瓦屋根が風で飛ばされ、雨漏りにもなりました。電気が使える大切さを身をもって感じたと思います。山武のおばさん家に大木が倒れたときも、当たり前のように掃き掃除をしてくれました。祖母にも「孫が手伝ってくれたから助かったよ」と言ってもらえました。学校メールは確認で困ったことはありませんでした。
- ・今回は自宅や実家で過ごすことができましたが、もし避難所生活をしなければならない状況になったとき障害の子供を連れて周りの方々に迷惑をかけてしまうのではないかと思い、いざという時どうしたらいいのか考えましたが答えはできません。本人は全く状況がわかっていないので、もし親がいないときこの子はどうなる？どうするだろう？と感じました。何か考えなければならないと思うのですが、何からどうしたらいいのかが正直全くわからないのが現状です。手帳を持っていたことと避難行動要支援者登録をしていたこともあり福祉課から安否確認の連絡が来ました。これは今後とも続けていただきたい。子供のことと全く関係ないのですが、水、食料品、その他の備品を合わせて買うのではなく、常に常備しておくべきだと感じました。